

上条

報告

第40号
平成24年9月

甲州市教育委員会
☎32-5097

大地の芸術祭

越後妻有アートトリエンナーレ

2012

左の写真をご覧になったことがありますか？最近、新聞や旅行雑誌などでよく取り上げられている風景です。日本の伝統的な棚田に、伝統的な作業風景をイメージした原色の巨大なパネルが目を引きま

これは、「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」という、三年に一度の巨大イベントの一つで、芸術祭は今年で五回目を迎えています。新潟県十日町市は、合併以前から十日町広域行政圏

として、アートを活用した地域活性化施策を推進してきました。合併により広域行政圏は、十日町市と津南町に統合されましたが、イベントは両市町で継続されています。会期中は、地域に三六〇点もの作品がちりばめられ、その作品までの道のりでお会いする自然や人や文化にも触れてもらおうという、壮大なものです。

伝統的建造物群保存地区でもない、文化的景観でもない、歴史まちづくりでもない、全く独自の視点からの地域振興を紹介します。



作品は二つの行政区にまたがり、三六〇点も出品されています。その中には、イベント当初から設置されているものもあります。上の写真の作品もそうです。北越急行（ほくほく線）松代駅に接続して、「まつだ農舞台」という施設があります。ここが作品鑑賞をするツアーの一つの拠点となります。施設周辺にも作品が点在していますが、渋海川を挟んだ対岸の山を切り開いた棚田や、棚田と棚田を結ぶ里道に、作品が展示されています。歩いていくとかなり距離があり、急な登り坂ばかりなので、まつだ農舞台ではパワーアシスト付き自転車のレンタルもしています。

農耕車も走る農道をひたすら歩いて登っていくと、カーブの先の空き地や、自家用の野菜を作っている畑や、棚田の中に、様々な作品が出てきます。イベントを始めてもう十二年も経っているのに、農作業をしている人も慣れたもので、こちらが会釈すると「こんにちわ」と返してくれます。

甲州市では、勝沼地域で「フットパス」が盛んですが、基本的にはフットパスと同じだと思えました。勝沼フットパスが史跡や名所をたずねてブドウ畑の中を歩くのと同様に、ここでは芸術作品をたずねて棚田や里山の中を歩いていくのです。



歩道も歩きやすくなっています。進んでいくと大きな作品が遠くから見え、近づくにつれて大きくなり、びっくりします。



まつだ農舞台の全景。喫茶や売店があり、作品鑑賞の出发点です。



作品ではありません。農作業中。

先の東日本大震災では、これらの作品も被害を受けており、約四分の一が全壊・半壊・損傷をしました。芸術祭を開催するに当たりまず行つたのが、当地域で被災された方々の手伝いと、壊れた作品の修復だったとい

前回のトリエンナーレ（平成二十一年）では、入れ込み客数三十八万人弱を記録しています。

会期：平成24年7月29日～9月17日
開催地：越後妻有地域（十日町市・津南町）
760平方キロメートル
主催：大地の芸術祭実行委員会
共催：NPO法人越後妻有里山協働機構

「小学校がまるごと絵本になった」
鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館

十日町市にはもう一つ、特徴的な美術館があります。廃校を利用して、地域の方々とともに作り上げた「絵本と木の実の美術館」です。

田島征三さんは、絵本作家で美術家です。田島さんが、大地の芸術祭・第四回越後妻有アートトリエンナーレの一つの作品として、平成二十一年に廃校になった真田小学校を再利用したものです。

真田小学校は、十日町市の「鉢」という集落にあります。すり鉢状の傾斜地に開けた集落で、小学校は比較的低いところにあるため、集落の家々はすべて小学校を向いているような気がします。集落の方々も小学校への思い入れがあり、田島さんとともに廃校を「作品」へ変えていきました。

平成二十年、地元の農家に色とりどりのカボチャを栽培してもらい、おばあちゃんたちに縄をなってもらい、体育館に七〇〇個ものカボチャをぶら下げる「畑の星星」を完成させました。その体験を土台として、トリエンナーレ参加作品「学校はカラッポにならない」へつなげていきました。



美術館の外観と内部の廊下。まさしく学校です。



体育館の作品。平成20年にはここに700個のカボチャがぶら下がっていました。



サクラの種を集めて貼り付けた大作。



学校で学ぶ様子を流木で再現したもの。

作品は、海岸から集めてきた流木や、地元の稲わらなどを使っています。

作品は、学校内だけでなく学校の周辺にも点在しています。それらをぐるっとみて回るわけですが、ほとんどが「踏む」「叩く」「引く」などの動作で音が出るような作品で、子どもたちは暑さも忘れて嬉々としています。シンプルで楽しい、そんな作品たちです。

山村の学校といっても、校庭はなかなかの広さです。校庭は駐車場として利用されていますが、係りが出て誘導するほどいっぱい状態です。学校を中心に据えている集落は、文化的景観でも相応しい風景ですが、アートによる地域おこしで大成功しました。

【横内知事、上条を視察】

八月三日に、横内知事が上条を訪れました。田辺市長が出迎え、甲州民家情報館で概要を説明したあと、放光寺の清雲先生と担当が説明しながら、一時間ほど散策をしました。

知事は常々「ふるさとの風景を大切に保存する」とを施策として語っており、上条地区にも非常に興味があったそうです。

中村一仁さんのお宅にも立ち寄りさせていただきました。涼しい土間で桃ジューズをいただき、一仁さんご家族としばし会話を楽しみました。



観音堂と木食仏を見学する知事。



一仁さん宅で記念撮影。



学校といえばオバケ。全国からオバケの絵を募集しました。



生徒が残した最後のらくがきが、まだ大切に残されています。